

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] レポート指導	[授業形態] 演習	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 1 2 3回 2 4 6時間	
[担当教員および実務経験] 榎野友則・佐藤千香・白倉啓子・星野和幸		
[授業の目的] ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。本科目では「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「社会福祉調査の基礎」「権利擁護を支える法制度」「福祉サービスの組織と経営」「刑事司法と福祉」「保健医療と福祉」「地域福祉と包括的支援体制A」「地域福祉と包括的支援体制B」「社会福祉原論B」の11科目を扱う。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。 ・ 個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる累計考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学のレポート課題を期限までに提出している。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 [専門科目] 6 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 [専門科目] 7 ソーシャルワーク演習 (社会専門)』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 5 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021年 		

- ・菅原好秀著『司法と福祉』建帛社、2023年
- ・菅原好秀著『権利擁護と法』建帛社、2022年
- ・『新・社会福祉士シリーズ11福祉サービスの組織と経営』弘文堂、2024年
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉養成講座5 保健医療と福祉（第2版）』中央法規出版、2025年
- ・都築光一著『福祉ライブラリ現代の地域福祉（第2版）』建帛社、2022年
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕4 社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年

[備考]

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～4	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱに関する基礎知識
5～6	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ レポート1 単位め (客観式) 実施指導
7～9	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ レポート2 単位め (論述式) 作成指導
10～12	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲに関する基礎知識
13～14	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ レポート1 単位め (客観式) 実施指導
15～17	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ レポート2 単位め (論述式) 作成指導
18～20	ソーシャルワーク演習Ⅰに関する基礎知識
21～23	ソーシャルワーク演習Ⅰ レポート1 単位め (論述式) 作成指導
24～26	ソーシャルワーク演習Ⅰ レポート2 単位め (論述式) 作成指導
27～29	ソーシャルワーク演習Ⅰ レポート3 単位め (論述式) 作成指導
30～33	社会福祉調査の基礎に関する基礎知識
34～35	社会福祉調査の基礎レポート1 単位め (客観式) 実施指導
36～38	社会福祉調査の基礎レポート2 単位め (論述式) 作成指導
39～41	権利擁護を支える法制度に関する基礎知識
42～43	権利擁護を支える法制度レポート1 単位め (客観式) 実施指導
44～46	権利擁護を支える法制度レポート2 単位め (論述式) 作成指導
47～49	福祉サービスの組織と経営に関する基礎知識
50～51	福祉サービスの組織と経営の基礎レポート1 単位め (客観式) 実施指導
52～57	福祉サービスの組織と経営の基礎レポート2 単位め (論述式) 作成指導
58～62	刑事司法と福祉に関する基礎知識
63～64	刑事司法と福祉レポート1 単位め (客観式) 実施指導
65～69	刑事司法と福祉レポート2 単位め (論述式) 作成指導
70～74	保健医療と福祉に関する基礎知識
75～76	保健医療と福祉レポート1 単位め (客観式) 実施指導

77～81	保健医療と福祉レポート2単位め（論述式）作成指導
82～87	地域福祉と包括的支援体制Aに関する基礎知識
88～89	地域福祉と包括的支援体制Aレポート1単位め（客観式）実施指導
90～94	地域福祉と包括的支援体制Aレポート2単位め（論述式）作成指導
95～99	地域福祉と包括的支援体制Bに関する基礎知識
100～101	地域福祉と包括的支援体制Bレポート1単位め（客観式）実施指導
102～107	地域福祉と包括的支援体制Bレポート2単位め（論述式）作成指導
104～108	社会福祉原論Bに関する基礎知識
109～110	社会福祉原論Bレポート1単位め（客観式）実施指導
111～115	社会福祉原論Bレポート2単位め（論述式）作成指導
116～123	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「保健医療と福祉」

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] レポート指導	[授業形態] 演習	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">必修</div> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 110回 220時間
[担当教員および実務経験] 楡野友則・佐藤千香・星野和幸		
[授業の目的] ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。本科目では「社会学と社会システム」「医学概論」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の4科目を扱う。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。 ・ 個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる累計考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学のレポート課題を期限までに提出している。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 3社会学と社会システム』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 1医学概論』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 [専門科目] 6ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 [専門科目] 8ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 (社会専門)』中央法規出版、2021年 		

[備考]

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～9	社会学と社会システムに関する基礎知識
10～11	社会学と社会システムレポート1単位め(客観式)実施指導
12～18	社会学と社会システムレポート2単位め(論述式)作成指導
19～28	医学概論に関する基礎知識
29～37	医学概論レポート1単位め(客観式)実施指導
38～39	医学概論レポート2単位め(論述式)作成指導
40～48	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳに関する基礎知識
49～50	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳレポート1単位め(客観式)実施指導
51～60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳレポート2単位め(論述式)作成指導
61～70	ソーシャルワーク実習Ⅰに関する基礎知識
71～80	ソーシャルワーク実習Ⅰ課題1作成指導
81～90	ソーシャルワーク実習Ⅰ課題2作成指導
91～100	ソーシャルワーク実習Ⅰ課題3作成指導
101～110	ソーシャルワーク実習Ⅰ課題4作成指導

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 国家試験対策	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 65回 130時間
[担当教員および実務経験] 榎野友則 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任) 佐藤千香 (病院において看護師として勤務) 星野和幸 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任) 渡辺康子 (病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務)		
[授業の目的] 社会福祉士国家試験の出題基準をベースにしなが、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学ぶことで、基礎知識の定着を図ることを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。また、1問1答(過去問題)を使用し、国家試験問題の出題傾向を分析する。その上で、重要項目リストを用いて、基礎知識の定着を図る。		
[授業の到達目標] ・国家試験科目において、特に間違えてはいけない基礎問題を正解できる知識を身につける。		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により確認テストを実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献] ・ とう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2025』中央法規出版、2024年		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～13	1問1答問題演習 [共通科目] ①
14～20	1問1答問題演習 [専門科目] ①
21	確認テスト①
22～33	1問1答問題演習 [共通科目] ②
34～40	1問1答問題演習 [専門科目] ②
41	確認テスト②
42～53	1問1答問題演習 [共通科目] ③
54～60	1問1答問題演習 [専門科目] ③
61	確認テスト③
62～63	第37回社会福祉士国家試験問題演習 [共通科目]
64～65	第37回社会福祉士国家試験問題演習 [専門科目]

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 国家試験対策	[授業形態] 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 通年		[授業回数・時間数] 55回 110時間
[担当教員および実務経験] 榎野友則（家庭裁判所の審判により成年後見人を受任） 佐藤千香（病院において看護師として勤務） 星野和幸（家庭裁判所の審判により成年後見人を受任）		
[授業の目的] 社会福祉士国家試験の出題基準をベースにしなが、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学ぶことで、基礎知識の定着を図ることを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。また、1問1答（過去問題）を使用し、国家試験問題の出題傾向を分析する。その上で、重要項目リストを用いて、基礎知識の定着を図る。		
[授業の到達目標] ・ 国家試験科目において、特に間違えてはいけない基礎問題を正解できる知識を身につける。		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により確認テストを実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献] ・ いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2025』中央法規出版、2024年		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～11	1問1答問題演習 [共通科目] ①
12～17	1問1答問題演習 [専門科目] ①
18～19	確認テスト①
20～29	1問1答問題演習 [共通科目] ②
30～35	1問1答問題演習 [専門科目] ②
36～37	確認テスト②
38～47	1問1答問題演習 [共通科目] ③
48～52	1問1答問題演習 [専門科目] ③
53～54	確認テスト③
55	1年間のまとめ・振り返り

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 専攻科ゼミ	[授業形態] 演習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 佐藤 千香 (病院において看護師として勤務)		
[授業の目的] ・社会福祉士の仕事の理解を深める。 ・多職種連携を学ぶ。		
[授業の方法および概要] ・社会福祉士の分野を知る (コミュニティ・ソーシャルワーカーのDVD鑑賞・グループワーク等)。 ・医療・福祉の多職種連携について理解を深める。		
[授業の到達目標] ・社会福祉士の仕事の理解を深める。 ・多職種連携を学ぶことができる。 ・医療・福祉の多角的側面を理解できる。		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累積考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献] なし		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	オリエンテーション
2	コミュニティ・ソーシャルワーカーの仕事を知る
3	アルコール依存症
4	貧困
5	認知症
6	引きこもり
7	孤児
8	障害
9	震災
10	ホームレス
11	多職種連携①
12	多職種連携②
13	多職種連携③
14	多職種連携④
15	まとめ・振り返り

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 専攻科ゼミ	[授業形態] 演習	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 通年		[授業回数・時間数] 15回 30時間
[担当教員および実務経験] 井畑 友佳		
[授業の目的] ピアヘルパー認定試験の内容をもとに、カウンセリング演習について学ぶことを大きなテーマとする。加えて、「心理学とはどのような学問なのか?」「どのようなことに役立つのか?」など日常生活における身近な疑問を通して、人間の心の働きやカウンセリングにおける技法について学ぶ。		
[授業の方法および概要] 授業内容への関心を高めるため、コミュニケーションを取りながら学生自身の経験なども踏まえて進めていく。授業時には、到達目標に沿って主にプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。さらに、内容を深く理解するために演習（ロールプレイ・実践・ディベート・ディスカッション等）の時間も適度に取り入れることとする。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・知識を十分にもつ。 →人の心の基本的な仕組みと働き、カウンセリング技法やその特徴等について具体的に説明できる。 ・活動を行う意思を持ち実行できる。 →カウンセリングに関する知識を理解し、さらにその知識を実際に使える、活用しようという意識をもちチャレンジすることも大切となる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標の修得状況を測るために、確認テストを実施する。 ・平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に行うワークシートについて積極的に取り組む。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社、2023年 ・日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社、2002年 ※その他、心理学系のテキストを内容に合わせて参考文献とする。		

[備考]

[授業計画(内容)]

1	授業ガイダンス①
2	授業ガイダンス② 導入：「心」とは？
3	エクササイズ グループワーク①のテーマ発表 ポイント説明 自分なりに調べる（準備）
4	エクササイズ グループワーク①共有 ポイント説明
5	エクササイズ グループワーク②のテーマ発表 ポイント説明 自分なりに調べる（準備）
6	エクササイズ グループワーク②共有 ポイント説明
7	エクササイズ 言語的技法の練習①のテーマ発表 ポイント説明 活用と演習 確認テスト①
8	エクササイズ 言語的技法の練習②のテーマ発表 ポイント説明 活用と演習
9	エクササイズ 非言語的技法の練習のテーマ発表 ポイント説明 活用と演習
10	ディスカッションテーマの発表と内容調べ 確認テスト②
11	ディスカッション 内容調べ

12	ディスカッション実施
13	エクササイズ ロールプレイ①のテーマ グループで話し合う 確認テスト③
14	エクササイズ ロールプレイ②のテーマ グループで話し合う
15	エクササイズ カードを使ったロールプレイ 確認テスト④

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] ソーシャルワーク演習 I	[授業形態] 演習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 23回 46時間
[担当教員および実務経験] 楡野 友則		
[授業の目的] 社会福祉士として求められる知識と技術について、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を通してその内容を熟知する。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。		
[授業の方法および概要] ソーシャルワークの具体的実践の習得に焦点をあて、利用者理解・社会生活上の課題理解をグループディスカッションやロールプレイなどで実践する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 ・ 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 ・ 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ・ 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 ・ ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 ・ 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 		
[成績評価の方法と基準] <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出（事例検討）により累積考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021年 		

[備考]

[授業計画(内容)]

1	障害をもつ家族の事例検討①
2	障害をもつ家族の事例検討②
3	障害をもつ家族の事例検討③
4	高齢者虐待の事例検討①
5	高齢者虐待の事例検討②
6	不登校児童の事例検討①
7	不登校児童の事例検討②
8	不登校児童の事例検討③
9	自閉症児の事例検討①
10	自閉症児の事例検討②
11	自閉症児の事例検討③
12	社会的排除の事例検討①
13	社会的排除の事例検討②
14	スーパービジョン体験①
15	スーパービジョン体験②
16～19	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「ソーシャルワーク演習Ⅰ-1」
20～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講② 「ソーシャルワーク演習Ⅰ-2」

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] ソーシャルワーク演習 I	[授業形態] 演習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 15回 30時間
[担当教員および実務経験] 櫛野 友則		
<p>[授業の目的]</p> <p>社会福祉士として求められる知識と技術について、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を通してその内容を熟知する。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。</p>		
<p>[授業の方法および概要]</p> <p>ソーシャルワークの具体的実践の習得に焦点をあて、利用者理解・社会生活上の課題理解をグループディスカッションやロールプレイなどで実践する。</p>		
<p>[授業の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 ・ 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 ・ 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ・ 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 ・ ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 ・ 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 		
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出（事例検討）により累積考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021年 		

[備考]

[授業計画(内容)]

1	ソーシャルワーク演習[社会専門] の目標を理解する 事例検討①
2	ケースの発見とエンゲージメント (インテーク) 事例検討②
3	アセスメント 事例検討③
4	プランニング 事例検討④
5	支援の実施とモニタリング 事例検討⑤
6	支援の終結と結果評価アフターケア 事例検討⑥
7	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー 事例検討⑦
8	メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える 事例検討⑧
9	子どもや親のSOSに気付き、家族全体のレジリエンスを高めることを考える①
10	子どもや親のSOSに気付き、家族全体のレジリエンスを高めることを考える②
11	クライアントが一番気になっている問題から支援を考える 事例検討⑨
12	地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える 事例検討⑩
13	災害支援からソーシャルワーカーの基本姿勢と役割を考える①
14	災害支援からソーシャルワーカーの基本姿勢と役割を考える②
15	災害支援からソーシャルワーカーの基本姿勢と役割を考える③

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] ソーシャルワーク実習指導 I	[授業形態] 講義	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 23回 46時間	
[担当教員および実務経験] 星野 和幸		
[授業の目的] 社会福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とする。また、併せてソーシャルワーク実習の意義について理解をするとともに、実際に実習を行う分野における利用者、施設、事業者、機関、団体、地域社会等に関する基本的な理解をすることを目的とする。そして、これまで学修してきた社会福祉の専門知識を深化させるとともに、自分の援助能力の開発、今後の課題の明確化、自己理解を深める場とし、ソーシャルワーク専門職としての倫理観の理解を図る。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を行い、内容の理解を促進する。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。習得した知識・技術を元に、実習計画書及び実習課題ノートの作成を進める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・実習を行う施設を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的データ等を示しながら説明することができる。 ・実習を行う施設の根拠法、機能、業務内容について説明できる。 ・実習を行う施設において行われている関連業務の内容や他職種との役割等について説明できる。 ・実習課題ノートを作成することができる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考查を実施する ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学指定の課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 (社会専門)』中央法規出版、2021年 ・ 「ソーシャルワーク実習の手引き第1分冊・第2分冊」東北福祉大学 		

[備考]

[授業計画(内容)]

1	実習の意義と目的
2	実習の基本的達成課題①
3	実習の受講にあたって
4	実習の概要①
5	実習の概要②
6	レポート課題 1
7	実習課題ノート作成について
8～13	実習課題ノート作成
14	実習先からの内諾
15	実習計画書完成までの流れ
16～19	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ-1」
20～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講② 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ-2」

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] ソーシャルワーク実習指導 I	[授業形態] 講義	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 通年	[授業回数・時間数] 17回 34時間	
[担当教員および実務経験] 星野 和幸		
[授業の目的] 社会福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とする。また、併せてソーシャルワーク実習の意義について理解をするとともに、実際に実習を行う分野における利用者、施設、事業者、機関、団体、地域社会等に関する基本的な理解をすることを目的とする。そして、これまで学修してきた社会福祉の専門知識を深化させるとともに、自分の援助能力の開発、今後の課題の明確化、自己理解を深める場とし、ソーシャルワーク専門職としての倫理観の理解を図る。		
[授業の方法および概要] 実習先施設及び施設のある地域について、データ等を収集、分析してその理解を深め、さらに、実習課題ノート及び実習計画書の項目に沿って作成を進める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を行う施設を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的データ等を示しながら説明することができる。 ・ 実習を行う施設の根拠法、機能、業務内容について説明できる。 ・ 実習を行う施設において行われている関連業務の内容や他職種の役割等について説明できる。 ・ 実習課題ノートを作成することができる。 ・ 実習計画書を作成することができる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考查を実施する ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学指定の課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 (社会専門)』中央法規出版、2021年 ・ 「ソーシャルワーク実習の手引き第1分冊・第2分冊」東北福祉大学 		

[備考]

[授業計画(内容)]

1	事前訪問学習
2	実習直前ガイダンス
3	実習の基本的達成課題②・③
4	実習の実際① 権利擁護活動
5	実習の実際② コミュニケーションと人間関係の形成
6	実習の実際③ 援助関係の形成
7	実習の実際④ 支援計画の作成・実施と評価
8	実習の実際⑤ 多職種連携とチームアプローチ
9	実習の実際⑥ 地域社会での役割と地域社会への働きかけ
10	実習の実際⑦ 分野横断的・業種横断的な関係形成
11	実習の実際⑧ 社会資源の活用・調整・開発
12	実習の実際⑨ 経営や管理運営
13	実習の実際⑩ 社会福祉士の職業倫理
14	実習の実際⑪ ソーシャルワーク実践に求められる技術
15	実習のまとめ・振り返り
16～17	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ-3」

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 地域福祉と包括的支援体制	[授業形態] 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的] 地域福祉の基本的な考え方、理論、地域福祉の推進を図る実践方法について理解すること、地域住民や社会福祉士の取り組みなどを具体的に学び、現在の地域福祉の問題を考察しながら、問題解決の方向性を見出せるようになることを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の必要性を踏まえ、理念及び基本的な理論を説明することができる。 ・ 地域福祉に関する課題を把握し、解決に向けた方向性を見出すことができる。 ・ 地域福祉の展開手法や具体的な推進方法に関して説明することができる。 ・ 次年度の国家試験を見据え、基本知識の定着を図ることができる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、複数回の確認テストを実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉 (第2版)』建帛社、2022年 		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	オリエンテーション 地域福祉とは
2～3	地域福祉の主要な理論 地域福祉の概念
4	今日の地域社会の状況（地域の課題の把握）
5	ケアリングコミュニティ（地域共生社会）とは
6	福祉コミュニティとは 住民主体とは
7	確認テスト①
8	重層的支援体制整備事業
9	相談支援の推進
10	相談しやすい環境づくり
11	参加支援
12～13	地域づくり支援
14	確認テスト②
15	災害時の支援

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 就職実務	[授業形態] 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 久住 雅史 渡辺 康子 (病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務)		
[授業の目的] <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解、職業理解を行い、働くことを理解する。 ・社会人に必要なマナー、一般常識、主体性を身につけ、就職に繋げる。 		
[授業の方法および概要] 授業時には到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。また、グループワークや実践を通して、即戦力としての力を養う。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・希望する就職先に就職できる。 ・即戦力として働く知識、経験を得る。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累積考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] なし		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	オリエンテーション（就職活動の流れ、就職活動サイトへの登録）
2	求人票の確認方法
3	就職希望先の明確化
4	履歴書作成指導①（学歴、資格）
5	履歴書作成指導②（得意科目、学生時代に力を入れたこと）
6	履歴書作成指導③（自己の性格、趣味・特技）
7	履歴書作成指導④（志望動機）
8	面接時のマナー
9	面接練習①（入退室）
10	面接練習②（自己PR）
11	模擬面接①
12	模擬面接①フィードバック
13	模擬面接②
14	模擬面接②フィードバック
15	まとめ・振り返り

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] レポート指導	[授業形態] 演習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		[授業回数・時間数] 45回 90時間
[担当教員および実務経験] 楡野友則・佐藤千香		
[授業の目的] ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。本科目では「医学概論」「社会保障論Ⅰ」「社会保障論Ⅱ」の3科目を扱う。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。 ・ 個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる累計考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学のレポート課題を期限までに提出している。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 1 医学概論』中央法規出版、2021年 ・ 福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ12 社会保障 (第2版)』弘文堂、2025年 		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～8	医学概論に関する基礎知識
9～10	医学概論レポート1 単位め (客観式) 実施指導
11～16	医学概論レポート2 単位め (論述式) 作成指導
17～22	社会保障論Ⅰに関する基礎知識
23～24	社会保障論Ⅰ レポート1 単位め (客観式) 実施指導
25～30	社会保障論Ⅰ レポート2 単位め (論述式) 作成指導
31～36	社会保障論Ⅱに関する基礎知識
37～38	社会保障論Ⅱ レポート1 単位め (客観式) 実施指導
39～45	社会保障論Ⅱ レポート2 単位め (論述式) 作成指導

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 国家試験対策	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 105回 210時間
[担当教員および実務経験] 榎野友則 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任) 佐藤千香 (病院において看護師として勤務) 星野和幸 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任) 渡辺康子 (病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務)		
[授業の目的] 社会福祉士国家試験の出題基準をベースにしなが、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学ぶことで、基礎知識の定着を図ることを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。また、過去問題・模擬問題を使用し、国家試験問題の出題傾向を分析する。その上で、重要項目リストを用いて、基礎知識の定着を図る。		
[授業の到達目標] ・国家試験科目において、特に間違えてはいけない基礎問題を正解できる知識を身につける。		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 査点(75%) ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により確認テスト(模擬試験)を実施する。 ・ 平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献] ・いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』中央法規出版、2023年 ・中央法規社会福祉士受験対策研究会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2026 [共通科目]』中央法規出版、2025年 ・中央法規社会福祉士受験対策研究会『社会福祉士国家試験受験ワークブック2026 [専門科目編]』中央法規出版、2025年		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～13	第37回社会福祉士国家試験問題演習 [共通科目]
14～20	第37回社会福祉士国家試験問題演習 [専門科目]
21～23	模擬試験 (確認テスト) ①
24～35	2024年度社会福祉士国家試験模擬問題演習 [共通科目]
36～42	2024年度社会福祉士国家試験模擬問題演習 [専門科目]
43～45	模擬試験 (確認テスト) ②
46～57	1問1答問題演習 [共通科目] ①
58～64	1問1答問題演習 [専門科目] ①
65～76	1問1答問題演習 [共通科目] ②
77～83	1問1答問題演習 [専門科目] ②
84～90	第36回社会福祉士国家試験問題演習 [共通科目]
91～93	第36回社会福祉士国家試験問題演習 [専門科目]
94～99	第35回社会福祉士国家試験問題演習 [共通科目]
100～102	第35回社会福祉士国家試験問題演習 [専門科目]
103～105	模擬試験 (確認テスト) ③

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] ソーシャルワーク演習Ⅱ	[授業形態] 演習	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 23回 46時間	
[担当教員および実務経験] 楡野 友則		
[授業の目的] <p>社会福祉士として求められる知識と技術について、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を通してその内容を熟知する。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。</p>		
[授業の方法および概要] <p>ソーシャルワークの具体的実践の習得に焦点をあて、利用者理解・社会生活上の課題理解をグループディスカッションやロールプレイなどで実践する。</p>		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 ・ 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 ・ 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ・ 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 ・ ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 ・ 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 		
[成績評価の方法と基準] <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出（事例検討）により累積考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021年 		

[備考]

[授業計画(内容)]

1	精神疾患の事例検討①
2	精神疾患の事例検討②
3	犯罪少年の支援の事例検討①
4	犯罪少年の支援の事例検討②
5	難民支援の事例検討①
6	難民支援の事例検討②
7	他文化交流の事例検討①
8	他文化交流の事例検討②
9	成年後見の事例検討①
10	成年後見の事例検討②
11	成年後見の事例検討③
12	ターミナルケアの事例検討①
13	ターミナルケアの事例検討②
14	スーパービジョン体験（スーパーバイザーとして）①
15	スーパービジョン体験（スーパーバイザーとして）②
16～19	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「ソーシャルワーク演習Ⅱ - 1」
20～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講② 「ソーシャルワーク演習Ⅱ - 2」

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	[授業形態] 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 25回 50時間	
[担当教員および実務経験] 星野 和幸		
[授業の目的] 具体的な体験やソーシャルワーク実践活動を専門的援助として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を併せて修得する。社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うため、社会福祉士としての資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる。 ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成ができる。 ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価ができる。 ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価ができる。 ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解し説明できる。 ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけができる。 ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解し説明できる。 ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）について理解し説明できる。 ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任を理解し説明できる。 ・ソーシャルワーク実践に求められる技術（アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション）の実践的理解を行い説明できる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) 		

<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画書の内容を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ①表現や文字が正確であること ②実習に含むべき10項目の内容を理解していること ③具体的な実習目標、方法の設定をしていること ・平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・大学指定の課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 (社会専門)』中央法規出版、2021年
<p>[備考]</p>

[授業計画(内容)]	
1	ソーシャルワーク実習の仕組み (序章)
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造 (第1章)
3	実習先決定に向けた準備 (第2章)
4	実習先決定後の準備 (第3章)
5	実習中の学習 (第4章)
6	実習後の学習 (第5章)
7	権利擁護活動 (第6章第1節)
8	人間関係の形成および援助関係の形成 (第6章第2節第3節)
9	支援計画の作成と実施 (第6章第4節)
10	多職種連携とチームアプローチ (第6章第5節)
11	実習先の地域社会での役割と働きかけ (第6章第6節)
12	分野横断的・業種横断的な関係形成 (第6章第7節)
13	社会資源の活用・調整・開発 (第6章第8節)
14	施設・機関等の経営やサービス管理運営 (第6章第9節)
15	社会福祉士の職業倫理とソーシャルワーク実践の技術 (第6章第10節・第12節)
16～19	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ - 1」
20～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ - 2」
24～25	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講③ 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ - 3」

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 国家試験対策 (共通科目)	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 135回 270時間
[担当教員および実務経験] 榎野友則 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任) 佐藤千香 (病院において看護師として勤務) 白倉啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネーター業務) 星野和幸 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任)		
[授業の目的] 社会福祉士国家試験の出題基準に規定された共通科目である12科目について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。また、過去問題・模擬問題を使用し、国家試験問題の出題傾向を分析する。その上で、重要項目リストを用いて、基礎知識の定着を図る。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・「医学概論」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「心理学と心理的支援」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「社会学と社会システム」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「社会福祉の原理と政策」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「社会保障」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「権利擁護を支える法制度」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「地域福祉と包括的支援体制」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「障害者福祉」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「刑事司法と福祉」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「ソーシャルワークの基盤と専門職」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「ソーシャルワークの理論と方法」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「社会福祉調査の基礎」で正答率6割以上を獲得できる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により確認テスト(模擬試験)を実施す 		

る。

・平常点(25%)

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

[使用テキスト・参考文献]

・いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』中央法規出版、2023年

・中央法規社会福祉士受験対策研究会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2026 [共通科目]』中央法規出版、2025年

[備考]

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～7	「医学概論」重要項目整理
8～13	「心理学と心理的支援」重要項目整理
14～19	「社会学と社会システム」重要項目整理
20～24	「社会福祉の原理と政策」重要項目整理
25～30	「社会保障」重要項目整理
31～35	「権利擁護を支える法制度」重要項目整理
36～40	「地域福祉と包括的支援体制」重要項目整理
41～45	「障害者福祉」重要項目整理
46～50	「刑事司法と福祉」重要項目整理
50～55	「ソーシャルワークの基盤と専門職」重要項目整理
56～65	「ソーシャルワークの理論と方法」重要項目整理
66～71	「社会福祉調査の基礎」重要項目整理
72～73	模擬試験（確認テスト）①
74～77	「医学概論」過去問題演習
78～81	「心理学と心理的支援」過去問題演習
82～85	「社会学と社会システム」過去問題演習
86～89	「社会福祉の原理と政策」過去問題演習
90～94	「社会保障」過去問題演習
95～99	「権利擁護を支える法制度」過去問題演習
100～104	「地域福祉と包括的支援体制」過去問題演習
105～109	「障害者福祉」過去問題演習
110～114	「刑事司法と福祉」過去問題演習
115～119	「ソーシャルワークの基盤と専門職」過去問題演習
120～124	「ソーシャルワークの理論と方法」過去問題演習

125～129	「社会福祉調査の基礎」過去問題演習
130～131	模擬問題（確認テスト②）
132～133	直前問題演習〔共通科目〕①（確認テスト③）
134～135	直前問題演習〔共通科目〕②（確認テスト④）

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 国家試験対策 (専門科目)	[授業形態] 講義	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 通年	[授業回数・時間数] 90回 180時間	
[担当教員および実務経験] 榎野友則 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任) 佐藤千香 (病院において看護師として勤務) 白倉啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務) 星野和幸 (家庭裁判所の審判により成年後見人を受任)		
[授業の目的] 社会福祉士国家試験の出題基準に規定された専門科目である7科目について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。また、過去問題・模擬問題を使用し、国家試験問題の出題傾向を分析する。その上で、重要項目リストを用いて、基礎知識の定着を図る。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者福祉」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「児童・家庭福祉」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「貧困に対する支援」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「保健医療と福祉」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「ソーシャルワークの理論と方法 (専門)」で正答率6割以上を獲得できる。 ・「福祉サービスの組織と経営」で正答率6割以上を獲得できる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により確認テスト (模擬試験) を実施する。 ・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] ・ とう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』中央法		

規出版、2023年

- ・中央法規社会福祉士受験対策研究会『社会福祉士国家試験受験ワークブック2026 [専門科目]』中央法規出版、2025年

[備考]

[授業計画(内容)]

1	授業オリエンテーション
2～7	「高齢者福祉」重要項目整理
8～13	「児童・家庭福祉」重要項目整理
14～19	「貧困に対する支援」重要項目整理
20～26	「保健医療と福祉」重要項目整理
27～32	「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」重要項目整理
33～38	「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」重要項目整理
39～44	「福祉サービスの組織と経営」重要項目整理
45～46	模擬試験（確認テスト）①
47～51	「高齢者福祉」過去問題演習
52～56	「児童・家庭福祉」過去問題演習
57～60	「貧困に対する支援」過去問題演習
61～65	「保健医療と福祉」過去問題演習
66～71	「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」過去問題演習
72～79	「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」過去問題演習
80～84	「福祉サービスの組織と経営」過去問題演習
85～86	模擬問題（確認テスト②）
87～88	直前問題演習 [専門科目] ①（確認テスト③）
89～90	直前問題演習 [専門科目] ②（確認テスト④）